

いじめ問題に対する私見

大河内 祥晴

1. 学校のいじめ認識に対する疑問

(1) いじめの定義の変遷

- ・平成6年度からの定義； ・ ・ 一方的に ・ ・ 継続的に ・ ・ 深刻な苦痛 ・ ・
- ・平成18年度からの定義；判断はいじめられた児童生徒の立場に立って ・ ・ 精神的な苦痛 ・ ・
- ・平成25年6月施行、いじめ防止対策推進法にある定義
 - ・ ・ 心理的・物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われものを含む)であって、当該行為の対象となった児童等が心身に苦痛を感じているものをいう

苦痛の受け止め方によって解釈が異なり、児童生徒の立場に立つという意図が理解されていない

(2) いじめ認知の現状

- ・TV番組のコメンテーター、教師（平成18年）
「いじめは受けている行為の受け止め方によって違う。耐えられる子と耐えられない子がいる。だから難しい」
- ・岩手県矢巾中の校長（昨年度の認知件数0件について問われ）
「いわゆる定義に照らしたときのいじめとは判断しなかった、ということ」
- ・いじめ(平成15年)裁判における校長の証言(平成25年)
ー加害者の言い分を聞いたのみで、訴えた子の聞き取りをしなかった理由を問われー
「子供の言うこと（いじめはしていない）を信じなかったら終わりだ。学校に調査権はない、あるのは警察だけだ」

**子供が訴えても教師が認めなければいじめと認知されず、教師の裁量次第になっているのが実態
社会のいじめに対する認識が、子供に訴えをためらわせる一因となっている**

2. 学校のいじめ対策に関する疑問

(1) 校長について

- ・2年前にいじめ自死した中2男子の親の言葉
「前の(おかしな)学校が当たり前だと思っていたのに、新しい校長に変わってから以前では考えられな幾らいに学校が変わった。校長次第で変わるんですよね。」
- ・次男のいじめ自死事件(平成6年)当時の中学校の状況
校長の席はあるが、実質的な運営責任者は教頭及び多発する問題行動対応のための生徒指導主事であり事件後の横柄な対応には閉口した。対応は新任校長により一変した。
- ・生徒の思いを否定し続けた校長
いじめをなくす活動を否定、妨害され続けた次男の後輩が卒業後に口にした言葉
「新しい校長先生と話してきた。この先生だったら留年してでも(活動を)やり直したい」
教頭の言葉

**「メンバーがかわいそうで校長に幾ら頼んでも聞いてもらえない。みんな困っている」
いじめに対する取り組みを含め校長の責任は大きい役割を認識していない校長が見受けられる**

(2) 教員の本音

- ・「教えるのが仕事なのに、何故（なぜ）（なぜ）いじめなんかに対応しなくてはいけないのか」
- ・「いじめなんて、子供から打ち明けてくれなければ見つけることなんてできない」
- ・「問題対応が日常茶飯事であり、授業を始められるかどうかで頭がいっぱいである」
（荒れた状態が放置され続ける中で自死事件が発生した中学校において）

様々な背景や環境の影響を受け、教員の意識にも大きな差異が見られる

(3) いじめからの逃避？

－自死事件が起きた中学校が実施したアンケートについて－

① 教委がいじめ対策として実施回数を力説した“生活アンケート”（記名式？）

Q1 学校生活に対する満足度 Q2 ; Q1 の対象、内容

Q3(最後の項目)－今、あなたの周りで嫌な思いをしたり、悩んだりしている人がいたら教えてください。それはどんなことですか？－

② 受けていた行為の緊急調査アンケート(無記名)

具体的な言動 7 項目の有無(○付け方式) ・ ・ 結果 ; 直接見た 5 項目, 24 名

本人から聞いた相談を受けた 2 項目, 5 人

生活アンケートの Q3 は答えやすい問いかけになっているのか疑問である。

緊急アンケートで回答数が多い理由として、具体的な質問のため答えやすかったこともあげられる

学校は子供からの訴えを聞き出そうと思っているのか、疑問を感じている

4. 子供たちの声から

(1) 辛（つら）さを訴える手紙の内容を聞いた子供たちの感想文

- ・「私はいじめというものがどんなに人を苦しめるものかわかっていませんでした」 （中 1）
- ・「手紙の内容をきいて、いじめられている子がどんなふうに思っているのか、どんなふうに感じているのかが私も少しわかりました」 （小 6）
- ・「いじめが理由で不登校になった友達があります。自殺したいとか思わせないように、せめて悩みを聞くだけでもいいので、力になりたいと思いました」 （中 1）
- ・「(いじめていた)あいつを(手紙の子と)同じように傷つけていたかもしれない。
でも、そんなことを今まで少しも考えたことがなかった」

子供たちがいじめの辛(つら)さに気づく、気づかせるための場が設けられているのか疑問である

(2) 次男の中学校の取り組み

－同級生が立ち上げたいじめを考える活動“ハートコンタクト”－

- ・「清輝先輩のことは決して忘れません」
- ・定期的に集まり、クラスの様子や気になる子についての情報交換、気になる子への声かけ
- ・各学年で開催する“いじめについて考える集会”における話合い

仲間に嫌な思いをさせないように、自分も嫌な思いをしないように、みんなが声をあげてくれている